

商工会女性部はまさに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

商工祭での女性部名物

「牡蠣汁」の提供から

新たな挑戦へとチェンジ

本吉唐桑商工会女性部(宮城県)



本吉唐桑商工会は、宮城県の北東端にある気仙沼市の旧本吉町と旧唐桑町が合併してできた商工会です。

当地域は、世界三大漁場の一つである三陸沖に面しており、カツオやサンマなど海の恵みに満ちあふれた地域です。とくに三陸沖で育つ「唐桑牡蠣」は、その濃厚な味わいから海の宝石とも称される逸品です。

私たち商工会女性部は、そんな牡蠣を生かして、毎年11月に開催される「リ

アス牡蠣まつり唐桑・商工祭」で牡蠣汁を提供するのが一大イベントになっていました。

牡蠣汁は、秘伝の牡蠣エキスづくりにはじまって、部員たちが自宅で作った白菜やネギやニンジンなどさまざまな野菜をもち寄り、真心たっぷり具だくさんであることが特徴です。やがてそのおいしさが地域に浸透し、気がつけば女性部名物と呼ばれるまでに成長しました。



女性部員による製作の様子

楽しい学校生活を見守る
「お守りランドセル」を
新1年生へ贈呈
南九州市商工会女性部(鹿児島県)





「リアス牡蠣まつり唐桑・商工祭」の様子



地域の方々においしさが浸透した
商工会女性部の牡蠣汁

しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止となり、徐々に部員たちの士気が下がっていきました。

何とかしなければとの思いから、部員皆さんの女性部魂に新たな炎を灯すため、チャリティバザーなどの新たな活動へとシフトチェンジすることにし

ました。

地域のイベントは日頃お世話になっている皆様へ感謝の気持ちを伝える大切な場所でもあります。これからも地域を支える女性部として、地域の皆様に笑顔になっていただけよう、部員一同、心を一つに活動していきたいと思えます。



メッセージカードを添えて贈呈したミニランドセルのお守り「ぶじかえる」

南九州市は鹿児島県薩摩半島の南部に位置しており、230年以上の伝統を誇る市「川辺二日市」や、日本一の生産量を誇る「知覧茶」のまちとして知られています。

南九州市商工会女性部は、2012年4月に3つの町の商工会が合併して誕生し、各地区の伝統的な祭りやイベントに積極的に参加・協力してきましたが、コロナ禍で思うように活動ができませんでした。そのようななかで地域社会への貢献を模索したところ、現部長が手芸店で見かけた作品をもとにデザインしたミニランドセルをお守りとして製作し、新1年生へ贈る「お守りランドセル事業」を始めました。このミニランドセルは縦4cm、横3cmの

キーホルダー型で、厚紙でつくった型枠に色とりどりのクラフトテープで上ぶたと肩ひもを取り付け、開け閉めもできます。児童たちの安全な通学を願って「ぶじかえる」と名づけられました。

当初、部長が所属する地区だけで始めたこの事業ですが、3年目となる2023年度は南九州市内の全16小学校の新1年生へ約300個を製作し、入学式に間に合うようにメッセージカードを添えて小学校に贈呈しました。

また、ほかの女性部からもこの事業を行いたいとの声が寄せられ、女性部員がランドセルづくりの指導に向いた結果、県内のみならず県外の女性部にもこの取り組みが広がっています。